

漁業資源・漁場調査と情報提供

原田慈雄・中地良樹・御所豊穂・小林慧一・武田保幸

1 目的

和歌山県周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

2 方法

主な調査市場（図1）で、生物情報収集調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ）および資源動向調査（ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）を月1回、沿岸定線24定点と浅海定線18定点において実施した（図1）。4、5月にはモジャコ調査を実施した。

3 結果及び考察

生物情報収集調査および資源動向調査の一部（主要魚種の月別漁獲量）を図2に示す。紀伊水道内標本2市場（西脇・栖原計）の船びき網によるシラスの漁獲量は、1、2、4、10～12月に平年を上回った。2そうまき網によるサバ類漁獲量（比井崎・御坊・田辺計、2そうまき網は以下同じ）は、全ての月で平年を下回った。2そうまき網によるマアジ漁獲量は12月以外平年を下回り低調に推移した。2そうまき網によるマルアジ漁獲量は、2～4月、12月に平年を上回ったものの、昨年同様、産卵期の5、6月は平年を大きく下回った。紀伊水道内標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は、全ての月で平年を大きく下回った。紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量は、全ての月で平年を下回った。また、海洋観測表およびモジャコ調査速報として公表した資料を当事業報告巻末に添付した。海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）等の結果については、国立研究開発法人水産研究・教育機構、各都道府県水産試験研究機関および社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベースに登録した。生物情報収集調査のうち主要魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ）について、その「資源評価表」が、水産庁および国立研究開発法人水産研究・教育機構の担当水研により策定、公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やイワシ類産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供した。ムロアジ類、タチウオ、イサキおよびハモについては、資源動向をとりまとめ、国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所に報告した。また、「第47回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「平成28年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議」、「平成28年度中央ブロック資源動向調査検討会」および「平成28年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会」において、調査結果を報告した。

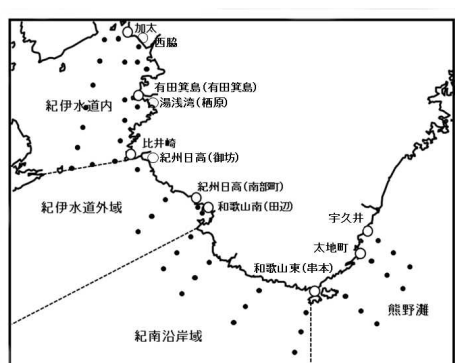
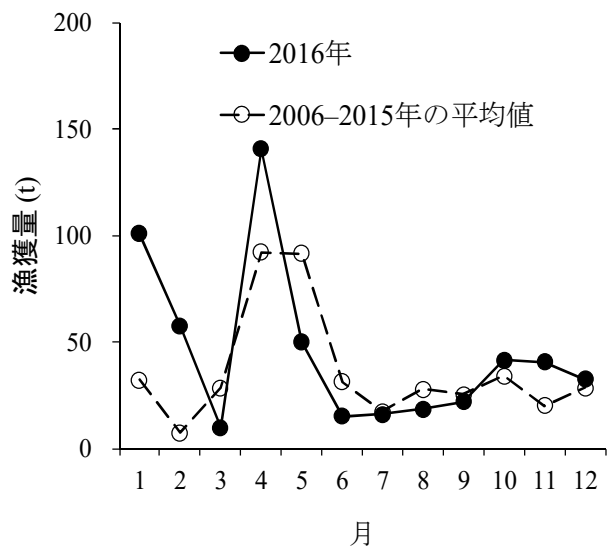
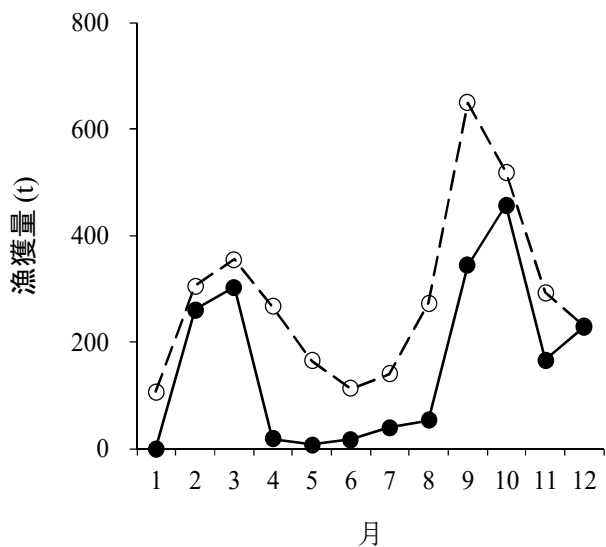


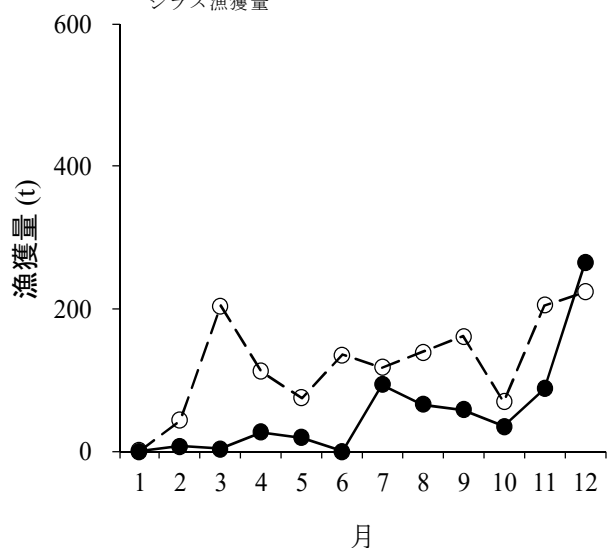
図1 主な調査市場（○）と海洋観測調査定点（●）



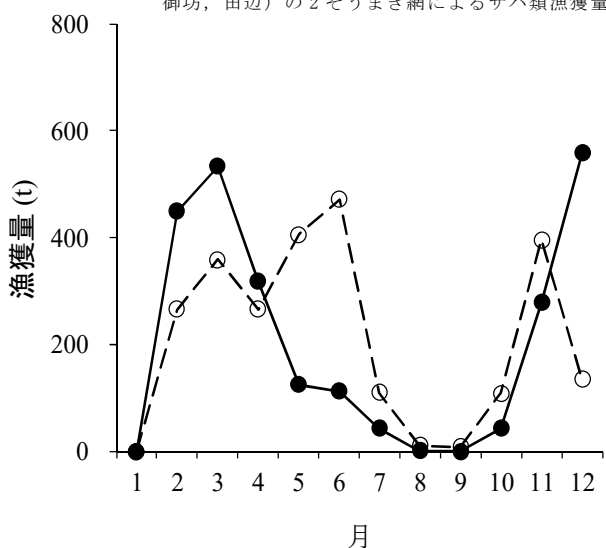
紀伊水道内標本2市場（西脇，栖原）の船びき網によるシラス漁獲量



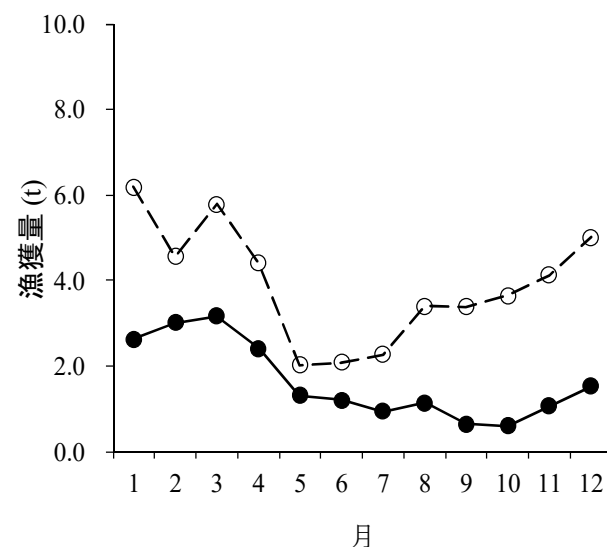
紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊，田辺）の2そうまき網によるサバ類漁獲量



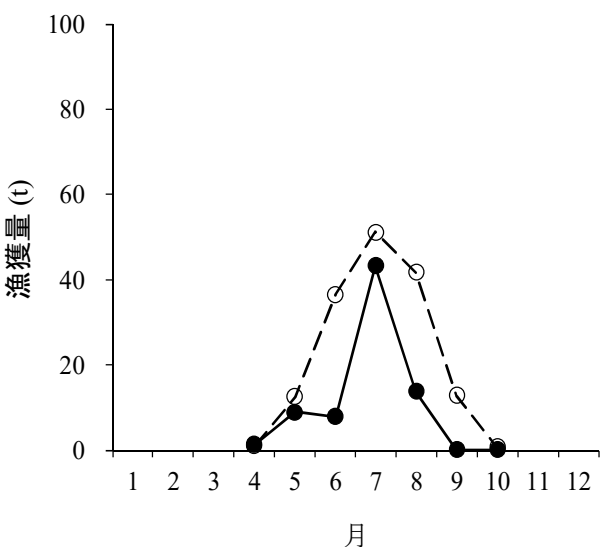
紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊，田辺）の2そうまき網によるマアジ漁獲量



紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場（比井崎，御坊，田辺）の2そうまき網によるマルアジ漁獲量



紀伊水道内標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイ漁獲量



紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量

図2 主要魚種の月別漁獲量